平成２６年６月２９日

今週のベストショット

雁レクＥ　新町パイレーツ　対　三苫フレンズ戦

今季未勝利同士の対戦は、パイレーツに軍配が上がり連敗を先に脱出。

写真：奈多サンデーズ　木下隆弘

雁レクＥ　パイレーツ、逆転で掴んだ今季初勝利！

新町パイレーツ（１勝３敗）００４１０１　６　　山本○、吉田－小黒

三苫フレンズ　（０勝４敗）１３００００　４　　山口●－生野（拓）

３ＢＨ：吉田、桐島（新町パ）２ＢＨ：白岩（将）（新町パ）盗塁：桐島（新町パ）生野２（拓）（三苫フ）

初回から試合が動いた。四球で出塁した三苫フレンズ一番生野（拓）選手が二番田中選手のヒットとスチールで無死三塁へ進み、三番西山選手のショートゴロの間アッという間に１点先制すると、二回裏には死球とエラーで無死一二塁とし、九番二宮選手のセンター前ヒット。ホームタッチアウトとなったが、続く一番生野選手がレフトのグラブを弾く痛烈な当たりで三者生還。完全に流れはフレンズペースに。一方のパイレーツは一回、二回と無得点でなかなか波に乗れない中、三回の守備でピッチャー山本選手がバント処理を飛びつくナイスプレー。ここから流れを掴んだのか、その裏、四球で出塁した一番桐島選手が、続く二番小黒選手の当たりをセカンドがエラー、カバーがもたつく間に三塁も蹴りホームイン。ようやく流れに乗ったパイレーツは、その後五番吉田選手の三塁打と内野ゴロで一気に同点に。続く四回表、一番桐島選手のセンターオーバーのヒットでホームタッチアウトになるも、前の打者が帰り逆転に成功。五回からはエース吉田投手への継投。六回表にも追加点が入り終盤をきれいにまとめた。フレンズは前半のいい流れを攻撃でのバントミスや守備のエラーで潰したのが悔やまれる。ただし最後まで投げ抜いた山口投手と攻守にわたり貢献した生野捕手の今後の活躍は楽しみだ。

（記事：奈多サンデーズ　田中孝幹、写真：木下隆弘）

速球派のフレンズ山口投手。

技巧派のパイレーツ先発の山本投手。

まだまだ元気なフレンズ二宮選手。

攻守に活躍したフレンズ一番生野捕手。

投打に活躍したパイレーツ吉田選手。

バントが決まれば・・・。

笑顔も見え、押せ押せのフレンズベンチ。

好プレーの桐島選手を迎えるパイレーツベンチ。

五回から登場のエース吉田投手。

流れを戻したいフレンズベンチ。

初勝利の立役者、左から山本投手、吉田投手、桐島遊撃手。

青松園Ａ　全勝チーム消える！　ウインズ藤田投手の奪三振ショーと特大３ランＨＲ！！

雁ノ巣ライナーズ（４勝１敗）０１０００　　１　　鳥越●ー竹上

新町ウインズ（３勝２敗１分）００２４６　１２　　藤田〇ー今林

ＨＲ：藤田（新町ウ）２ＢＨ：藤田（新町ウ）

　ここまで全勝と絶好調の雁ノ巣ライナーズと藤田投手擁する新町ウインズの好カード。一回表ライナーズは、先週殊勲打の明瀬兄弟から始まる打順だったが、藤田投手がいきなり三者連続三振に切って取る！一方のウインズもここまで負けなしの鳥越投手に立ち上がりを抑えられる。二回表、四番宇野選手が豪快なスイングでラッキーなライト前ヒットで出塁し、続く五番久保田選手もつまりながら出塁しチャンスを作ると、今期から加入の六番竹上選手のセンター犠牲フライで先制点を挙げる。しかし藤田投手の勢いは変わらず、三回まで６奪三振。ライナーズも追加点が奪えず投手戦と思われた。しかし迎えた三回裏のウインズの攻撃、一番桐島選手が四球、続く二番長岡選手のライト前ヒットを好守の明瀬航選手が悪送球！ホームインまで許してしまい、この回２点で逆転を許す。動揺の色を隠せない鳥越投手は続く打者に連続四球を与えたが、何とか２点でしのぎ、打線に期待をする。四回表、ライナーズは三番中ロ選手からはじまるクリーンナップであったが、またしても藤田投手の前に三者連続三振で、計８三振。嫌なムードが立ち込める中、迎えた四回裏、ウインズの松岡選手をショートゴロに打ち取ったと思った瞬間、またもや名手明瀬旭選手が一塁悪送球にてランナーを二塁まで進めてしまう。続く野中選手が右中間に運ぶとエラーにＷＰもかさみ、藤田選手が右越え二塁打にてこの回一挙に６点と終盤の追加点

をもぎとる。何とか追い付きたいライナーズだが、五回表も１三振を含むここまで９奪三振を許してしまう。ここまで完璧なピッチングの藤田選手が打者としても魅せてくれた！五回裏、特大の右越え３ランにて試合を決めた。本日は、今迄堅実なプレイを行っていたライナーズのエラーから始まり、鳥越投手が気落ちした一瞬に畳み掛けたウインズの執念が勝利を呼び込んだ。何が起こるか分からないのが試合運びの醍醐味ですね！！
（記事・ブルーマーリンズ　末松勝祝、写真・井手翔一郎）

にこやかに挨拶を行う両チーム。

二回表、ライナーズ七番竹上選手の先制打。

四回裏、ウインズ八番野中選手の追加点打。

五回裏、ウインズ代打大久保選手のセンター前。

五回裏、ウインズ藤田選手の特大３ランＨＲ。

四回表、力と力の勝負、ライナーズ四番宇野選手の豪快なスイング。

豪快スイングなら負けないウインズ城戸選手。

投げては９奪三振、打っては特大３ランの藤田選手！

青松園Ｂ　８本の長打！奈多クラブが三友クラブを圧倒！

三友クラブ（３敗１分）０００００　０　　福山●、足達ー谷崎

奈多クラブ（４勝１敗）３００４２×　９　　今林（瑠）○ー安河内

ＨＲ：上野（奈多ク）３ＢＨ：今林賢人、今林卓也、上野（奈多ク）

２ＢＨ：安部健太、今林卓也、今林瑠生、砂場（奈多ク）

一回表を２奪三振の三者凡退で好スタートを切った奈多クラブ今林（瑠）投手。その裏、奈多クラブは三友クラブ先発の福山投手を攻め、先頭の今林（賢）選手が三塁線を破る三塁打で出塁すると、四番安部（健）選手、五番今林（卓）選手の二者連続二塁打で３点を先制する。しかし、二回表三友クラブも逆襲。この回先頭の四番松尾選手のライト前ヒットを皮切りに、四球、坂本選手のヒットで無死満塁の大チャンスを作る。しかし、次の山本選手は三振、さらに、広瀬選手のダブルプレーでこのチャンスをつかむ事ができない。二回以降代わった三友クラブ足達投手を攻めあぐねていた奈多クラブ打線は四回裏、上野選手の２ラン、今林（瑠）選手、今林（祐）選手のタイムリーで、４点を追加。さらには、五回に３本の長打で２点を追加した。奈多クラブの今林（瑠）投手は二回のピンチを切り抜けると、６個の三振を奪う快投で三友打線を完封。８本の長打で奈多クラブが三友クラブを圧倒した。（記事：奈多フェニックス　今林文彦、写真：太田）

リーグでもトップクラスの今林瑠生投手、この日も完封でピシャリ！

二回表のチャンスの口火を切るヒットを放つ三友クラブ松尾選手。

２本の長打を放った奈多クラブ五番今林卓也選手。

ＨＲを含む２長打３打点の活躍、奈多クラブ七番上野選手。

雁レクＤ　三球会打線爆発！１５安打でコールド勝ち！！

ソルトベイスターズ（２勝４敗）００００１０　１　中村耕一郎●ー酒井
三苫三球会　（３勝１敗）２２３１３Ｘ　１１　吉留〇ー藤澤

この日、三球会の打撃陣が爆発。一回裏三球会は一死から二番藤澤選手が四球で出塁するとワイルドピッチで、二塁へ。二死から四番堺太一選手が、ヒットを放つと外野手が後逸し２点を先取。続く二回裏も一死二三塁で九番浜口選手のピッチャー強襲でアウトになるも追加点。続く一番大津選手の良い当たりをソルトベイスターズ坂本二塁手が飛び込みナイスキャッチするも一塁セーフで追加点。止まらない三球会は続く三回裏も６安打で３得点。なんとか反撃したいソルトは、四回表一死満塁のチャンスに六番酒井選手の内野ゴロの間に１点を返す。しかし四回裏、前の回でレフト前を放った三番右山選手のソロＨＲも飛び出し、五回裏にも３点を追加した三球会が、毎回の１１得点を上げ、コールド勝ちで勝利を手にした。（記事、写真：レッドサンデーズ　前田篤史）

雨も心配されたが、無事試合開始。

三球会先発の吉留投手。

ソルトベイスターズ中村耕一郎投手。

この日２安打の三球会四番堺太一選手。

四回裏、ホームランを打ち激走する右山選手。

ホームランを打った三球会三番右山選手。

第９週編集後記
ＷＳＬの皆さん、コンニチハ！

第９週６月２９日は４試合が行われました。

雁レクＥの新町パイレーツ対三苫フレンズの未だ勝利のないチーム同士の対戦は、４点のビハインドを三回表に一気に追いついたパイレーツが、終盤２点を追加して６－４と逆転勝利した。新加入のパイレーツ山本投手は、いきなり４失点したものの、本人も、チームにとっても嬉しい初勝利。パイレーツにやっと白星がついたが、自力があるだけに連勝できるかが今後の鍵だ。

青松園Ａの雁ノ巣ライナーズ対新町ウインズ戦は、鳥越、藤田の好投手同士の投げ合いとなったが、明暗がくっきり分かれた。二回表に先制したライナーズだが、三回裏に四球とエラーで逆転を許すと、三～五回で１２点を奪われ、今季初黒星は１－１２のコールド負け。ウインズ藤田投手は投げては９奪三振、１四球。打っても豪快な３ランを放った。一方ライナーズの鳥越投手は、前回の投球では７四死球ながら相手の拙攻に助けられたが、今回は８四死球と自滅。投打が噛み合った時のウインズは侮れない存在だ。

青松園Ｂの三友クラブ対奈多クラブ戦は、初回から自慢の打線で三友クラブ先発福山投手に襲い掛かった奈多クラブは、３点を先制し、代った足立投手からも６点を奪った。投げては今林瑠生投手が二回の無死満塁のピンチを無失点で切り抜けると、０－９の完封勝利。奈多クラブ一番今林賢人選手は三試合連続先頭打者ＨＲを狙った打球がレフトを破ったが、三塁打止まりだった。

雁レクＤのソルトベイスターズ対三苫三球会戦は、初回こそ１安打で２得点だった三球会が二回以降１４安打で毎回得点の１１点を奪うと、投げては吉留投手がソルト打線を１安打に抑え、１－１１のコールド勝ち。三球会は三番右山選手のＨＲ以外はすべて単打と、三球会らしいコツコツと打線をつなぐ攻撃を展開。両チーム合わせて２７人が出場する目まぐるしい試合だった。

全勝チームが無くなり、今年のＷＳＬは混沌としてきました。不安定な空模様で、チームの実力を如何に発揮させるかは監督の采配とバッテリー力でしょう。

まだまだどのチームにもチャンスがあるので、頑張りましょう！